

第3回附特セミナー

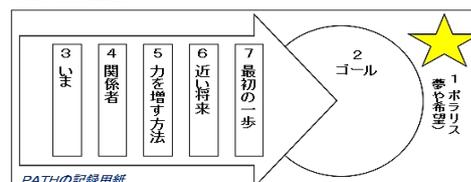
熊本大学教育学部附属特別支援学校（以下：熊大）研究主任 多田肇先生をお招きし、『個別の教育支援計画の充実と活用ー支援者ミーティングの進め方ー』と題して、第3回の附特セミナーを行いました。

はじめに、熊大式授業づくりシステムと3つの核となるミーティングについて紹介後、PATHミーティングと熊大式支援者ミーティングについて、お話していただきました。



PATH (Planning Alternative Tomorrow with Hope 「希望に満ちたもう一つの明日の計画」)

- ・「その子に関わる人たちが一堂に会して、その子の「夢」を語り合い、どのような支援を行っていくかを話し合う作戦会議」
- ・支援者ミーティングにかかる時間は1時間半～2時間

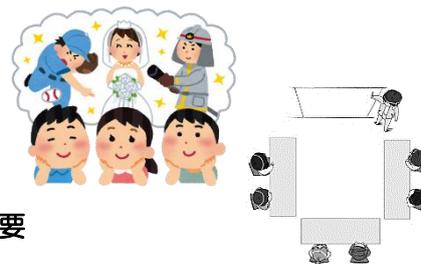


*ミーティングシステムが継続できるように1時間で協議できるように設定

熊大式支援者ミーティング

<ねらい>

- ・長期的な視点から支援計画を見据える
- ・子どもにかかわる人たちが将来のビジョンを共有
 - *教育や療育方法を語るものではない
 - *ねらいが変わらないように、ファシリテーターの役割は重要



<参加者> (10～12名)

本人 (ミーティングに入れない場合は、家族が本人の思いをくんで参加する)

家族 (父、母、兄弟、祖父母)

担任

関係者 (療育、デイなど)

専門家 (熊大教育学部の教授、医師など)

<流れ>

- ①その子の将来の「夢」や希望について語る
- ②「将来のゴール (3年後)」を設定する
- ③目標の順位をつけ、高いものから学校・家庭・関係機関による支援の内容と役割分担を検討する
- ④協議の結果を個別の教育支援計画に集約する承諾を得る

<ルール> (B・S～ブレインストーミング～)

自由奔放

批判厳禁

量の重視

発展便乗

*支援者ミーティングが効率的、効果的に進むためのポイント

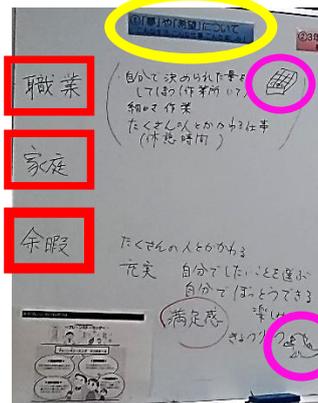
熊大式支援者ミーティングのお話の後、小学部 中学部、高等部の生徒を想定した仮のケースを取り上げて、支援者ミーティングの演習を行いました。



支援者ミーティングの流れ

1. 自己紹介
2. 支援者ミーティングの目的の説明
 - 将来の夢や希望を明らかにし、実現するための方法を考える会であることの確認
 - ルールの確認
 - * 事前にお知らせしておくとい
3. プロフィールシートの確認（児童生徒について担任から説明）
4. 個別の教育支援計画の検討

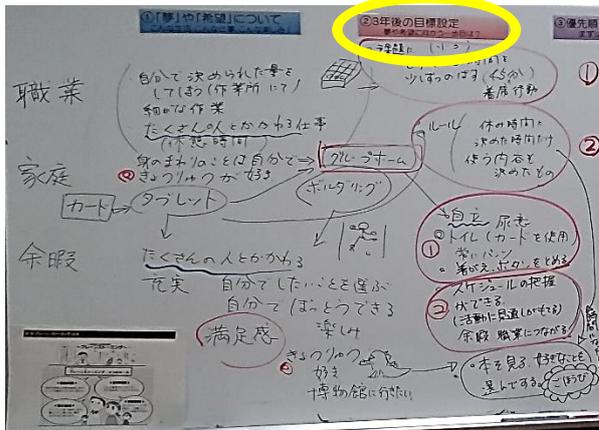
①参加者で児童生徒の将来の夢や希望について、職業生活、家庭生活、余暇生活の面から語る



Point
 将来の夢や希望を大きくふくらませることが大事なので、出席者に事前に夢を考えておいてもらうようにしておく
 と会が進みやすい

Point
 記録の仕方も大事
 絵を描くなどして情報を視覚化し、できるように

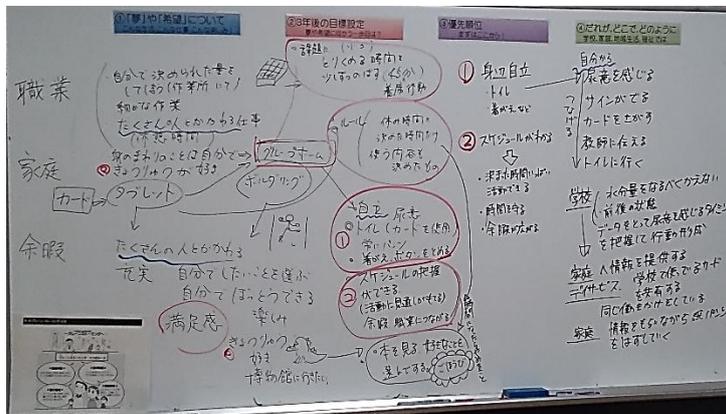
②「将来のゴール（3年後）」を設定する



夢や希望を叶えるために、どんな力をつけたらよいか考えて意見を出し合う

Point
 マーカーを使い分けて記録する
 黒：出た意見
 赤：優先順位
 青：みんな共通の意見

③優先順位をつけ、それぞれの目標について学校・家庭・関係機関による支援の内容と役割分担を検討する

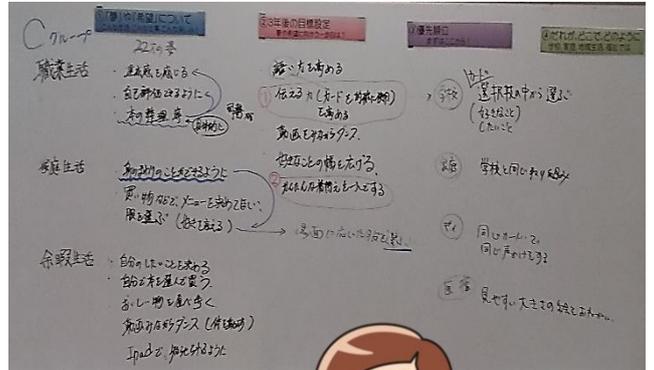


④協議の結果を個別の教育支援計画に集約する承諾を得る

セミナーの様子と参加者の声



支援者ミーティング、難しいなあ…と感じました。でも、本番は、子どもが実際にいるので、話しやすいのかなと思いました。子どもの困りより、“夢”という点から話すので、マイナス（否定的）な話にならないのでよいなあと思いました。【小学校 K. N】



来年度に向けての保護者との面談があるので、活用できる部分があった。困りではなく夢の実現のために、どう取り組んでいくかの話し合いの方が前向きで、保護者も話しやすいだろうなと思った。【小中学校 A. S】



講話+演習の研修でしたので、大変わかりやすく、ミーティングの実践に生かせそうだなと感じました。【大分市 中学校 K. M】



PATHの演習を役割分担して一通り行うことで、流れが良く分かりました。“自由で奔放な発想”“批判厳禁”などのルールがあるから、安心して意見を出すことができました。【特別支援 I. Y】



小学校、中学校、支援学校から参加された24名の皆様から感想、今後取り上げてほしいテーマなどについてご意見をいただきました。今後の附特セミナーに反映させていただきたいと思います。ありがとうございました。